

カトリック 仙台教区報

2002年 2月 20日 No.144

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378

編集責任者 田中丈夫

URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

一八八殉教者列福

仙台教区 司教 溝部 脩

現在日本教会は一八八名の殉教者の列福を進めています。

私はその運動初期から、歴史調査委員会の一員としてかわってききました。一八八名を選ぶにあたって、三つの主な理由がありました。その第一は、歴史的にしっかりと

ついで、老若男女と幅を広くして、司祭、聖職者に限らないこと。最後は、日本全国を網羅することでした。

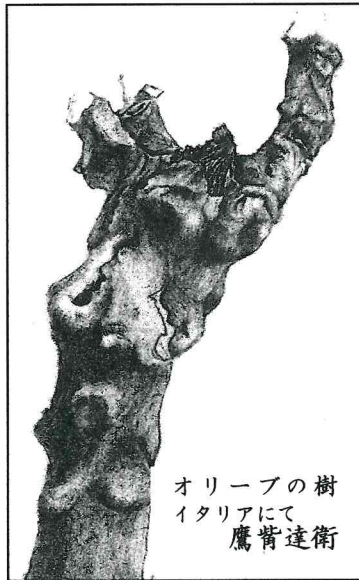
歴史的にしっかりと

ついで、老若男女と幅を広くして、司祭、聖職者に限らないこと。最後は、日本全国を網羅することでした。

例えば広瀬川の殉教は、一六二四年二月十八日から二十二日の間に行なわれた、これは疑えない事実です。確かな証言があり、信憑性がとても高い。その意味で、史料がしっかりとっている仙台の殉教者が今回取り上げられなかったのは、今になって考えると、実に残念です。余り人数を増やさないと、米沢

の殉教が老若男女を交えたものであり、今回の列福運動にはふさわしいと判断したからでもあります。

歴史的にしっかりといるという事は、思い込みからの殉教に熱狂的になること



樹のブリーフ
イタリアにて
鷹背達衛

を避けるためでもあるのです。言い伝えや、迷信まがいのキリシタン崇敬と一線を引いています。これは決して歴史的史料があるものしか殉教がないといっているのではありません。多くの匿名の信者たちが、信仰のためになくなつたと私は確信しています。史料がはっきりしている殉教者たちは、その他の多くの信者たちの代表と考えられます。

しかし、歴史的にはつきりしていても、必ずしも殉教とは言えません。殉教とは、イエスを宣言して、そのことのために命を捧げる行為を指しています。これは歴史的な、政治的なことがらが複雑に絡んでいて、それらが殉教に至らしめたというものの見方に反対しています。広瀬川の殉教でも、伊達政宗の思惑や、徳川家光の意向など種々の政治的な要因が絡んでいます。それでも、カルバリオ神父とその仲間、あえてイエスというお方を信じるがために命を捧げたのです。全てを歴史の必然とする史観と異なっています。そこには、殉教者たちの確固とした意思表示があるのです。

老若男女を網羅すること
現在まで列聖、列福されている殉教者は殆ど成人の男性で占められています。教会は男性によって占められています。また成人しているから成聖へと召されている訳でもありません。子供であっても十分殉教者であり、聖人であることを教会は主張してきました。これらを考えて、日本の殉教者の中でお年よりから子供まで、男性、女性を含めた殉教を選びました。この基準に合っているものとして、東北では米沢の殉教が選ばれました。といつても決して司祭、修道者はずしした訳ではありません。ペトロカス、岐阜部神父などは、現代カトリック教会にとって最高の証人として考えているので、列福の対象となりました。その熱意、その信念は現代の司祭への警鐘となります。

地方性を重んじたこと
カトリック教会とか、殉教者といいますが、どうしても長崎地方に偏りがちです。日本全体に広がっていた信者たちの状況は、長崎ほど知られていないという理由にもよります。しかし、信仰の証は日本全国に広がっていて、その血による証の種子は日本の全ての教区に受け継がれています。今回の列福を通して、日本教会全体に先人が歩んだ道を信者が深く進むという決意を求めています。

現代、また殉教を強調するより、弱くて、信仰を公言することを憚った人々に焦点をあてる傾向があります。それも一理以上のものがあります。それでも弱さ、迷いに揺り動かされつつも、尚イエス・キリストへの信仰のために死を選んだ人達は称えられて然るべきです。私は仙台教区の中で殉教した人々を、もつともつと顕彰したいと願っています。(4ページへ)

▼青森 大湊教会

カトリック未開拓といわれた下北半島に、ケベック宣教会によって昭和二九年五月、現在の地に本州最北端の教会として誕生しました。

信徒の数は九八名。市内には二つのカトリック幼稚園を擁しています。創立以来四八年の歴史の中では二人の司祭、三人の修道女が誕生しています。

現在は神父様の常駐しない教会となつて二年になります。四月には神父様が常駐されるとのことに信徒一同安堵の胸をなで下ろしています。

日曜日のミサの参加者は十五名・復活祭四〇名・クリスマスは七〇名前後の方々の参加がありますが、高齢化と男性信



徒が少ないのが悩みの一つとなつています。(大場)

▼岩手 花巻教会

当教会は、昭和三〇年九月に落成し、小林有方司教様が、献堂式を司式して以来、五〇周年が間近に迫っています。

この設立には、信者の大内チヨ氏、及川節子氏等の数多くの方が貢献されています。

初代司祭は、スイス生まれのゲーヴィレル神父で、同じく加美山恵子伝導婦、似内稔会長とともに四〇年以上も教会の発

各地から

展に努められ、神父は、平成七年に七十七才で帰天、花巻の墓地に眠っています。

この間に、当教会から及川正神父、平賀徹夫神父そして板垣勤神父が輩出しています。

二代目神父は、同じスイス生まれのツゲル神父で平成八年から現在に至っています。師は聖書研究家であり、東北、北海道から講師としてよく招かれて多忙であります。

平成一三年に、溝部脩司教様により、堅信式が久し振りに行

われ、若い信徒等十名が受堅することができました。祝賀会では、司教様のお話しや飛び入りの唱歌とで盛会で、司教様と信徒との間が、身近に感じることができ、信徒の使命を再確認できました。(小田代)

▼宮城 仙台中央地区教会

『元寺小路教会のその後』皆様からの浄財献金により、

一九九三年(平成五年)七月二四日の献堂式で主に捧げられたから、はや九年を迎えております。

その後この大型堂で三名の司祭が叙階され(田中、小松、和野神父)、

そして記憶に新しい溝部脩司教が大聖年の年、二〇〇〇年九月九日にこの大聖堂で叙階されました。

またお別れとして、九六年十月に深沢豊治神父、九九年三月には斎藤石雄神父、本間重治神父を、その年の八月には元教区長小林有方司教を葬儀ミサでお送りしております。

仙台教区の典札祭儀の中心としてのカテドラル(司教座聖堂)を少しでも長く維持するため、教区本部事務局と小教区と

によるセンター管理運営委員会が今までに二十回にわたり持たれ、建物の維持そして使い勝手のよい会議室などの運営に努めております。

なおカテドラルのため溝部司教のミサが多く、この説教集がありますので希望の教会におあげします。(千葉)

▼福島 原町教会

福島県の浜通り、仙台市といわき市の間に位置した原町教会は、戦後間もなくドミニコ会によって献堂され、エベール神父様とカテキスタ関とみ先生

によって守られてきました。昨年二月、献堂五〇周年を迎え、着任されたばかりの溝部司教様をお迎えして、盛大に記念式典を行いました。今夏ご苦勞の多かつた関先生が亡くなられ、

五〇年の間にあちこち傷んできた聖堂建物の修復事業と共に、わが教会も大きな節目を迎えたようです。二年前東京神学院からパイプオルガンを譲って頂き、オルガニストの青田絹

江さんによるコンサートも数回開催されました。エベール神父様亡き後、数多くの神父様のお世話になりながら、現在は北

仙台教会主任司祭のラトウー

ル神父様が教会主任です。クリスマスや復活祭には、入りきれなくなりませんが、毎週ミサには二、三十人が集います。一人一人が寄り添い、助け合い、働かないと倒れる教会です。この力のなさ、弱さ、貧しさが原町教会の力なのでしょう。(若原)

会津若松

ザベリオ学園小学校で出火

出火は、一月三十日(水)午後三時四〇分頃のことでした。子ども達は終礼を終えて帰り支度をほとんど済ませていたもので全員を無事避難させることができました。火元のない所での出火でしたので原因は未だに判明していません。

おかげさまで小学校一・二年生は幼稚園で、三年生から六年生までは中・高校舎の一部を借りて二月五日(火)から授業を再開致しました。明るく元気な子ども達が学校に戻り、一週間振りです学園は元の活気を取り戻しつつあります。これも皆様の支えとご協力のたまものとして深く感謝申し上げます。一日も早く子ども達によりよい環境が与えられますよう、教職員が一丸となって最大限の努力をしております。(学園長 高橋)

篠田教会 三十年の使命を終えて

篠田教会閉鎖にあたって

仙台教区長

司教 溝部 脩

この発端は、ラボア神父様が病気でカナダより帰国できな

いのではないかと噂が伝わった時からでした。そして、実際に神父様から辞任の手紙を頂いた時に、これからどうするかが早速実際問題として浮上してま

いりました。まずケベック宣教会の管区長様と最初の相談をしました。それから教区の司祭評議会にかけて話し合いました。結論は青森県の全司祭とまず話し合って、よりよき知恵を頂くこと、それを基にして司祭評議会の判断をすることにしました。その前に篠田教会の信者との対話を持つことを決めました。

そしてその順序に従って行われました。青森県の司祭たちは、青森本町教会に属するより他に方法はないとの結論でした。司祭不在の教会を、特に冬の間に空けたまましておくのは困難であるとの意見もありました。また今の状況で小教区として維持するのは不可能だということでした。ただし、信者さんたちの

気持ちを考えて、いつ廃止して、本町教会に合流するかは決めて頂く方がよいということでした。そこで、十月末の会合が篠田教会でもたれました。

そこで決められたことを報告しましょう。

— 篠田教会は小教区として廃止して、青森本町教会に属する。

— 松ヶ丘教会は本町教会の巡回となる。

— ただし、今まで培ってきた篠田教会の活動、交友は継続するものであり、それを廃止する必要はない。

— 統廃合の日は二〇〇一年



十二月十六日とし、当日三〇周年の祝いも兼ねる。

— 建物や土地の今後は教区、ケベック会と話し合って決める。

— ラボア神父個人の所有物の処理はケベック会が行う。

初期の頃より働かれた神父様方、信者の皆様はこの紙面をお借りして感謝申し上げます。

今までしてくださったことの報いを、神様が豊かにしてくださいますように。

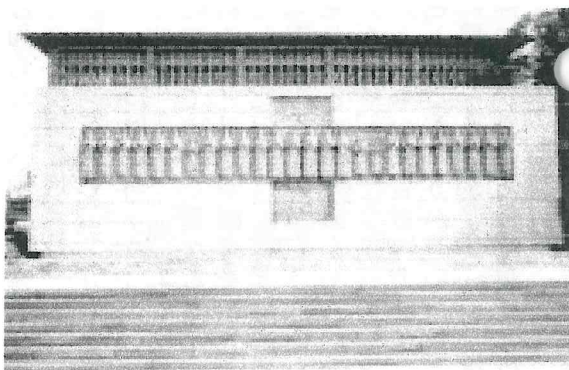
舟越保武氏の死を悼む

司祭の家 深沢守三

アンジェリコ舟越保武氏の逝去は、カトリック教会にとっても大きな悲しみであり、惜別の思いを禁じ得ない。氏は盛岡中学校時代、小生の三年先輩であり、亡兄豊治神父とは同学年であった。

かつて、三十年ほど前のことである。塩釜教会で、兄神父も交え、三人で歓談したことがあった。氏が話しておられた中から一つのことだけを紹介してみたい。氏は、中学生時代、足の

カリエスのため、足首にいつも包帯を巻き、不自由な歩き方をしておられたのである。しかし



その時には、氏の歩行が全く正常だったので、不思議に思い尋ねてみた。

「イヤー全くそうなんですよ。実は長崎の二十六聖殉教者像(写真)を作っているときでした。突然足が治ったんです。

私も驚いて、早速医者に診て貰ったんですが、医者は『この病

気は年を取ると、時として固まるということもあり得ますから

ネエ』と言うんですよ。しかしその頃私はまだ五十歳でしたからね。人がなんとやうかと、私は奇跡だと信じていますよ」と話して下さった。

長崎の二十六聖殉教者像の作者である氏の死が、同聖人達の祝日であったことを思い合わせ

る時、単なる偶然とは思えないのである。「原の城」「ダミアン神父」などの宗教的作品には特に、氏の深い信仰から溢れ出る格調の高さと気品を感じさせられるのである。

氏の死を心から悼んで止まない。

文芸〈短歌〉

河畔にて

(一本杉教会) 成毛一雄

遠き日の冬の河畔の殉教を
つたえて蒼くもだす川あり

殉教のなかのひとり司祭にて
なんばん人とのみしるさるる

死にちかきいのちのおくえさきや
ける 棄教のこえはなやきに
充つ

いかほどにいのちの重さうけとめて
ここにつごえる人もまぼろし

春の後藤寿庵大祈願祭

寿庵の遺徳をしのびつつ、今年
の豊作を願ひ、田畑で働く人々の
上に神の祝福がありますように
祈願したいと思ひます。

日時 二〇〇二年五月二六日(日)
場所 岩手県水沢市福原寿庵廟前
詳細は後日二案内申し上げます。

活動紹介

JCN A(日本カトリック看護協会) 仙台支部

JCN Aは、国際カトリック医療従事者協議会(CIICIA MS)に加盟し、キリストの福音の精神に基づいた活動をしています。

その活動は主に、機関誌の発行・研修会・黙想会、そして保健医療福祉に貢献する社会活動などです。しかし、会員は青森から福島と広く散らばっておりなかなか共同活動の機会がもてません。また、会員数が少ない事(現在、仙台支部は二十数名も悩みの種です。

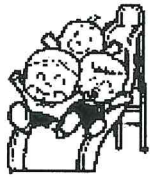
私の気分転換

元寺小路教会 佐藤 真澄

気分転換・・・これといつてないのが実状。その気分次第でちょうど良い気分転換法を見つづけるのが私である。しかし一つだけ確かなものは、気分転換できる楽しみが毎週ある。それは日曜学校である。現在、元寺小路教会の日曜学校のリーダーをしている私は、ミサ後に子供と一緒に過ごす時間が気分転換となる。日曜学校が終わった後も聖堂前の広場でおも

そのような現状の中で、スペルマン病院や特老施設に入院、入所されて居られる方々の癒しになればという願いを込めて、マリア祭などの行事を長年にわたり続けております。会の目的や活動についての詳細は後日改めて紹介させていただきますが、とりあえず、今回はJCN Aという会があることを知っていただければ幸いです。信者、医療従事者に関わらず会員を募集しております。代表者 支部長 織井 優貴子 連絡先 S r. リーズ・ラミ 光ヶ丘スペルマン病院内

いきり遊ぶ。遊ぶというと簡単なように聞こえて意外に難しい・・・気分転換が必要なきこ何も考えずに遊びに専念することはさらに難しい。ただ言えることは、子供は純粋であり、そこから得る力は気分転換以上にすごい力を持つていてと思う。私は毎日曜に子供から気分転換の方法を学び、一週間の動力を与えてもらっている。



シャルトル聖パウロ修道女会 泉 修道院

フランスのルヴェヴィルという小さな村に一六九六年に創立された修道女会で、以来三世の間、会員たちは世界各地で教育と福祉の仕事に従事してきました。

三人のフランス人修道女が来日したのは一八七八年。仙台では一八九三年、私立仙台女学校として設立認可を受け、女子の教育を開始。それから七十余年、学園関係者の期待と時代の要請にこたえてこ

修道院紹介

の地に短期大学が開設されたのは一九六六年、当初は家政科のみで後に英語科を増設。新しい世紀を目前にした一九九六年には仙台白百合女子大学人間学部が誕生しました。

現在短期大学と女子大学の昇華統合を目指して今年四月から一学部四学科(人間発達学科・総合福祉学科・健康栄養学科・国際教養学科)の新体制でスタートすることになりました。

「万人に万事」となった聖パウロの心を心として創立者の精神に倣い、教育・福祉活動に励んでおります。

生命の泉

信徒宣教の必要性が叫ばれて久しい。しかしこれまでの信仰生活を送ってきた立場からすれば何をどうすればよいのか戸惑うばかりだ。それどころか原理主義の絡みで宗教そのものまで胡散臭い。

◇去る一月十二日の読売新聞にイギリス・オックスフォードの生物学者R・ドーキンスのインタビュー記事が載っていた。彼は「人間以外の動物でも、同種間で殺し合うことがある。ただ、人間以外の動物は同種への攻撃に抑制的だ。しかし、それは、種全体の利益のためという理由からではない。相手の報復を招く非常に危険な行為だから抑制している」。◇ドーキンスの言う報復を恐れて抑制するの、ローレンツが言う種を絶滅から救う天の配剤なのかは知らないが宗教を奉じて殺し合う現実を何とどうすべきか。◇彼はまた言う「カトリックとプロテスタントが対立している北アイルランド問題も、神学的相違ではなく異なる集団であること自体が敵意を引き起こしている」と。敵意とは結局「相違」だと喝破する。違いを見分けるのは知識かも知れないが、違いを超えるのは叡智といふべきか。宣教の方法には色々あるだろうが互いが相互に理解しようとする、信仰に生かされた品格以外にはない。(守)

(一頁のつづき) 最後ですが、過去の歴史を通して、過去に生きた人と現代の信仰者は、信仰においてつながるということが考えられることができます。信仰にはつきりと殉じた人もいます。多分はつきりとはなくとも、それに殉じようとした人達も多くいたことでしょう。いずれもその時代の苦悩を背負って、しかも教えに殉じる生き方をしたのです。数世紀を経ても、私たち信仰者は、現代の苦悩を背負いつつ、イエスというお方の生き方を受け止めて、それに殉じる選択をしているのです。過去の殉教を思う度ごとに、現代に生きる私たちも教えに殉じる心を培う必要があります。二月は広瀬川の殉教を思い起こさせています。四旬節も始まります。信仰の恵みを頂いたことを感謝しつつ、気をひきしめて四旬節を送るよういたしましょう。

